

2022年5月1日～5月7日 各家庭でのディボーション用テキスト

**基督者** でも、あれの欲望どおりになられたわけではないでしょう。

**信仰者** そう、身を汚すところまではね。以前に見た古い書きものに、「遊女の歩みは陰府の道におもむく」【箴5:5、ヨブ31:1】とあるのを思い出したからです。それで目を閉じました、あの女の容姿に魅せられたくはなかったのです。すると女は私をからかいましたが、私は自分の道を進んで行きました。

**基督者** 道中何かほかの襲撃を受けられませんでしたか。

**信仰者** 難儀が丘と呼ばれる丘のふもとまで来ましたら、一人の大へん年とった人に会い、何者であるか、どこへ行くのかと尋ねられました。天の都へ行く巡礼者だと答えると、老人が言うのに、お前さんは正直者らしい、わしの与える給料でいっしょに暮らすのはおいやかな。そこで名と住所を尋ねると、初めのアダムという名で、詐欺町に住んでいるというのです。【エペ4:22】彼の仕事とはどんなもので、またくれるという給料はどのくらいかと聞きますと、仕事というのは、多くの楽しみで、給料は最後に彼の跡取りになることだと言いました。さらに、暮し向きはどうか、ほかにどんな召使がいるかと尋ねましたら、彼の家には世界中のあらゆるご馳走が出され、召使というのは自分が生ませたものだと言いました。それから子供は何人いるかと聞きますと、娘が三人だけで、肉の欲、目の欲、持ち物の誇りといい、【Iヨハ2:16】お望みなら、三人ともお嫁にあげようと言いました。それからまたどのくらいいっしょに住むことを望むのかと聞きますと、自分が生きている限りだと言いました。

**基督者** なるほど、で結局その老人とのお話はどうまとまったのですか。

**信仰者** いや、最初は私もその人といっしょに行きたいような気に幾分なりました。大分うまい話でしたから。ところが話しながら彼の顔を見ますと、そこに「古き人をその行ないといっしょに脱ぎ捨てよ」【コロ3:9】と書いてあるのを見ました。

**基督者** それからどうしました。

**信仰者** その時焼きつくように強く心に浮かんで来たことは、彼が何と言おうが、どんなにうまい口をきこうが、私を家に連れ戻ったが最後、奴隷として売るつもりなのだということでした。【ヨハ8:34】そこで、話はやめてくれ、お前さんの家に寄りつこうとは思わないと言ってやりました。すると彼は私をののしって、お前の道中が胆に銘じてつらくなるように男をやって追っかけさせるぞと言うのです。そこで私は彼から離れようと振り向きまして。ところがちょうど振り向いてそこから出かけようとしたとたんに、彼が私のからだをむずとつかんではげしく後に引っ張るのを感じましたので、からだの一部がもぎ取られたかと思ったほどです。このために私は「なんというみじめな人間なのだろう」【ロマ7:24】と叫びました。こう

して丘を登ってゆきました。

さて、道の半ばごろまで登ったころ、振り返って見ますと、一人の人が風のように速くやって来るのが見えました。そしてちょうど長いすのある所で私に追いつきました。

**基督者** 私はちょうどそこで休もうと腰をおろしたのですが、暑さにまけてこの巻物を懐から落としてなくしたのですよ。

**信仰者** まあまあ、私の話をしまいまで聞いて下さい。その男が私に追いついたかと思うと、あっという間もなく私をなぐり倒して、死んだように打ちのめしたのです。少し正気に返ったとき、何のためにこんな目にあわせるのかと尋ねますと、初めのアダムにひそかに心を寄せたからだと言いました。そう言いながらまた私の胸にひどい一撃を加えて、仰向けに打ち倒しました。それで私は前のように彼の足下に気を失って横たわりました。再び正気に返ったとき、泣いて慈悲を乞いましたが、慈悲を示す仕方は知らぬと言って、また私を打ちのめしたのです。一人の人が通りかかってやめよと言わなかったら、きっと私の息の根を止めてしまったでしょう。

**基督者** やめよと言ったのはだれでしたか。

**信仰者** 初めは分かりませんでした。その方が通り過ぎるとき、両手と脇腹とに傷あとを認めました。それでわが主であると推断しました。こうして私は丘を登ったのです。

**基督者** あなたに追いついたのはモーセという人です。彼はだれも容赦しません。また彼の律法を犯す者に慈悲を示す仕方を知らないのです。

**信仰者** それはよく存じています。私が彼に会ったのはこれが初めてではないのです。私が郷里で安らかに暮らしていたとき、私の所へやって来て、もしそこにとどまっているなら、家ごと焼いてしまうぞと言いました。

**基督者** ですが、丘の頂上で、モーセと出会った側に建っている家をご覧になりませんでしたか。

**信仰者** 見ました。またここに着かないうちにししも見ました。ししはというと、昼ごろでしたので眠っていたと思います。また日も高かったので門衛の側を通過して丘を下りました。

**基督者** 本当に、彼はあなたが通り過ぎるのを見たと言っていましたよ。ところで、あの家をお訪ねになるとよかったですね。珍しいものを沢山見せてくれて、死ぬ日まで忘れられないほどでしたらうに。ところで、お伺いしたいことは、屈辱の谷ではだれにもお会いになりませんでしたか。

**信仰者** はい、不満者という人に会いましたよ。彼はいっしょにもう一度引き返すことをしきりに勧めました。その理由はこの谷にはまったく榮譽がないというのでした。その上、そこに行くのは私のすべての友だち、つまり、自慢者、横柄者、自惚者、栄華者などにそむく道であって、もし私がこの谷を歩いて渡るようなばかなまねをしたら、彼らは無論ひどく腹を立てるだろうというのです。

【ジョン・バニヤン 天路歷程 正篇 より】

※この本は図書に置かれています。さらに読みたい方はどうぞご利用下さい